

中学生の主張・作文が表彰されました



中学生の主張大会

第38回中学生の主張大会が11月3日、たましんRISURUホールで行われました。当日は市内中学生3174人の応募から選ばれた中学生が、日常生活において、家族や友人、社会との関わりの中で気付き、考えたことを発表しました。主な入賞者は下記の通りです。《敬称略》

- ▼市長賞 張替望恵(七中2年)
- ▼議長賞 富樫陽菜子(二中3年)、佐藤澄佳(一中1年)
- ▼教育賞 野村未恭(二中3年)、野村奈夕(四中3年)
- ▼特別賞 鈴木康太(五中3年)、常盤奏(二中3年)
- ▼青少年問題協議会会長賞 大田夏帆(八中2年)、山下菜絵(四中3年)
- ▼佐藤ほの(二中1年)、高橋綺星(九中1年)、加藤結愛(二中1年)、浅井

第38回中学生の主張大会

市長賞

尊い命は繋がっている

張替望恵(七中2年)



たくさんの命がこの一つの空の下で繋がっています。私たち一人一人の思いや行動が繋がって、海の向こうや遠い国の誰かを笑顔にすることもできます。私は中学生になってそれを強く感じる体験をしました。

私の通う中学校では、毎年ユニセフ募金活動をしています。私は昨年、部活動の仲間とこの活動に参加しました。最初は緊張していましたが、先生方もそばで見守って下さっていたので思いきって大きな声で呼びかけることができました。抱えていた募金箱に初めて募金をしてもらった時には、人の温かさを感じ、とても嬉しかったです。募金活動に参加させていだいて、たくさんの人の優しい気持ちで直接受け取ることができ、貴重な経験になりました。募金して下さった方々の優しさや命を思いやる気持ちが、世界中の支援が必要な子どもたちに届くといいなと思います。

私は、他にも自分ができることがあるのではないかと考えていました。そしてこの春、一冊の本を読み、ランドセルギフトという取り組みを知りました。そこにはキラキラとした笑顔でランドセルを抱きしめている女の子の写真があり、心がひきつけられました。

ランドセルギフトとは、私たちが6年間使ったランドセルを日本からアフガニスタンへ贈る活動です。アフガニスタンでは全ての子どもたちが学校に行ける環境ではありません。家族を助けて働いている子どもたちもたくさんいます。日本から届いたランドセルは、そんな子どもたちの宝物になり、学校で学ぶきっかけにもなるそうです。アフガニスタンの子どもたちは、周りの人を助け、人の役に立ちたいと思いがから学校で学んでいます。それは、周りの人に助けられながら自分の命があることを知っているからだそうです。

学校に通っていたらどうかと考えました。そしてランドセルギフトの活動に参加したいと強く思いました。家族に自分の考えや思いを伝えたら、母は「遠い国で、ランドセルを背負った子どもの姿を見送る幸せなお母さんが増えるのはすごく嬉しい。」と喜んでくれました。兄と姉は自分たちのランドセルも寄付したいと言ってくれました。三人でランドセルを綺麗に磨きました。父と一緒にアフガニスタンへ送る手続きをしてくれました。自分家族みんなでたくさん思いを話しながら準備をしました。自分のランドセルがアフガニスタンの子どもたちに届き、笑顔や夢に繋がると、とてもわくわくします。海の向こうの国で、私のランドセルを大切に使う誰かがいると思うと、あの時行動して本当に良かったと心から思います。何かの役に立ちたいと思う気持ちを形にできる機会に出会えたことに感謝しています。

一つ一つの小さな行動が繋がっていかば、世界中が笑顔になるのではないのでしょうか。私は今、中学生です。だからたくさんのお金を寄付したり、被災地に行ったりボランティア活動することも海外で活動することもできません。中学生の今、私たちにできることは何でしょうか。命の尊さを心に入れて考え、自分にできることを見つけ、行動していくことではないでしょうか。

私は大切にしている言葉があります。「私が生きている今日は、生きたいと願いながらそれが叶わなかった誰かの今日かもしれない。」という言葉です。私はこの言葉ずっと大切に、大人にならなうと思っています。

私たちは、世界中の命が繋がっていることを絶対忘れてはいけません。中学生の今、私たちにできることを心を入れて考え続けていきたいと思います。

井紗和(三中1年)、川田彩可(二中2年)、葛西知夏(六中2年)

子ども育成課青少年係・内線1305

「税についての作文」「税の標語」表彰

次代を担う中学生の皆さんに税への関心と理解を深めてもらうことを目的としているコンクールで、市内の中学生が受賞しました。《敬称略》

- 税についての作文 ▼市長賞 筒井ゆり乃(七中3年)
- ▼教育賞 鈴木瑠夏(八中3年)

●税の標語 ▼市長賞 江森颯汰(七中1年) [左記参照]



全国中学生人権作文コンテスト

中学生が人権尊重の大切さを考え、豊かな人権感覚を身に付けることを目的に行われる全国中学生人権作文コンテストで市内中学生が下表の通り入賞し、立川地区人権擁護委員会による表彰式が行われました。

氏名《敬称略》	学校学年	受賞
玉川 桃子	二中3年	市長賞、立川地区人権擁護委員会最優秀賞、東京都大会作文委員会賞
高木柚実	七中2年	立川地区人権擁護委員会優秀賞、東京都大会作文委員会賞
氏原 優	二中2年	立川地区人権擁護委員会入選、多摩西人権擁護委員協議会長賞
小柳 愛実	五中2年	
宮崎 心	二中2年	
尾久歩優羽	五中2年	
伊藤 有為	七中2年	立川地区人権擁護委員会佳作
本田あおは	七中2年	
岡村 陸朗	二中2年	
水谷 悠里	二中2年	



立川市人権作文表彰式の様子

立川市立小学校連合展覧会(書写展)

市立小学校全校から児童の選りすぐりの書写作品など約2000点を展示します。立川ろう学校の児童作品も展示します。直接会場へ時1月24日(木)〜27日(日)、午前10時〜午後7時場たましんRISURUホール地下展示室

問指導課指導係・内線2487

ごみ処理優良事業所を募集

市は、事業系ごみの減量や資源化を推進するため、ごみの減量やリサイクル活動に積極的に取り組む事業所を優良事業所として認定しています。38項目の認定基準のうち、8項目以上を満たせば認定を受けられます。認定された事業所には、認定証とステッカーを交付し、ホームページ等でその取り組み等を紹介いたします。実施要項などくわしくは市ホームページをご覧ください。

問ごみ対策課・内線6748

石油ストーブは灯油を抜いて粗大ごみで

石油ストーブは、通常のごみの収集には出せません。事前に粗大ごみ収集受付専用電話☎(531)5311に申し込んで、灯油をすべて抜いて出してください。灯油が残っていると、収集・処理の際、発火する恐れがあります。灯油が残り、少量なら古布や古紙にしみこませて燃やせるごみとして出してください。多量なら購入した店舗に引き取ってもらうか、ごみ対策課にお問い合わせください。引き取り業者をご案内します。直接、総合リサイクルセンターへ持ち込む場合も灯油はすべて抜いてください。



問ごみ対策課・内線6752